

産婦人科専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに

プログラムリーダー 沼津市立病院 第一産婦人科部長 辻井 篤

研修医のみなさん、はじめまして。このプログラムに関心を持ってくださりありがとうございます。このプログラムは静岡県東部地域の病院及び静岡市立清水病院（以下、病院群）の総力を結集して専門医を目指す研修医をサポートするものです。一つ一つの病院は中規模病院ですが、総力を結集することにより大病院に匹敵するか、それ以上の研修環境を実現します。複数の病院をローテーションすることで、同一疾患に対して様々な考え方を学ぶことができます。



また、若いうちから複数の環境で働くことでスタッフとのコミュニケーションの大切さを自覚し、単に診療するだけの医師ではなく、チーム医療においてリーダーとしてチームを牽引する医師を目指してほしいと思います。

病院実績や病院の特徴を確認することは大切ですが、実際に見たり聴いたりしないと分からないことが多いですね。ぜひ、私に連絡をとって話を聞きに来て下さい。

2 特徴

専門医申請のための症例数は十分に経験できます。周産期医療については、産科救急受入医療機関（伊東市民病院、富士宮市立病院）や地域周産期母子医療センター（沼津市立病院、富士市立中央病院）の役割を実際に経験することができ、総合周産期母子医療センター（静岡県立こども病院、順天堂大学医学部附属静岡病院）や地域のクリニックとの連携も十分に経験できます。

悪性腫瘍は最先端の静岡県立静岡がんセンターをはじめ、がん診療拠点病院（沼津市立病院）やがん診療連携推進病院（静岡医療センター、富士市立中央病院、富士宮市立病院）、がん相談支援センター（伊東市民病院）で学ぶことができます。

生殖・内分泌医療は、特定不妊治療指定医療機関（聖隷沼津病院、沼津市立病院、富士市立中央病院）等で学ぶことができます。

良性腫瘍、女性のヘルスケアの分野に於いても各病院が特色のある医療を行っています。このように役割や立場が違う複数の医療機関での多角的な研修ができますので、産婦人科のあらゆる領域に柔軟に対応できる能力をもつ専門医を育成できることが、当プログラムの特徴です。

3 目的

- 1) “地域”と“ひと”を大切にする人間の育成
- 2) 産科婦人科の優秀な専門医の育成
- 3) 地域医療を“こころ”と“技”と“知識”で支える医師の育成
- 4) チームのリーダーとしてスタッフと協働し、マネジメントができる医師の育成

4 目標

- 1) 周産期、婦人科腫瘍、生殖・内分泌、女性のヘルスケアの4分野を適切なバランスで研修する。
- 2) 以下の必要症例数を経験する。
 - (1) 実地経験目録 分娩症例 100 例：帝王切開の執刀 10 例以上を含む
 - (2) 実地経験目録 手術症例 50 例：腹式単純子宮全摘術の執刀 5 例以上を含む
 - (3) 実地経験目録 子宮内容除去術 10 例：人工妊娠中絶・流産手術・診断のための全面掻爬術などの子宮内操作を行った症例を含む
 - (4) 症例記録：10 例

※ただし、これらは学会で規定された症例数であり、最低限の基準であることを認識して下さい。本プログラムではこれ以上の経験が可能です。

5 研修カリキュラム

産科婦人科学会『研修カリキュラム』に従う。

6 研修例

- 1) 原則として一つの病院での研修は1年間とするが、本人の希望を勘案し個別対応も可能。
- 2) 病院の組み合わせ（ローテーション）は希望に応じて柔軟に対応します。

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	〇〇病院											

2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	△△病院						□□病院					

3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	□□病院						〇〇病院					

4年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	〇〇病院				試験	〇病院	発表	◇◇病院				

7 研修病院群

1) 研修施設

伊東市民病院

専門医 荒堀憲二(1979年 自治医科大学医学部卒)

当院は現在年間分娩数が約360件ですが、助産師を主体とした満足度の高いお産を心がけています。希望者には和室でのフリースタイルの分娩を提供し、誘発や鉗子、会陰切開などの介入を少なくし、医師は黒子役に徹しています。

条件が許せば、VBAC や骨盤位（外回転術で多くが整復しますが）の経膈分娩の希望にも応じています。これは経験のある医師が主役となります。

当院の研修では、自然の分娩介助をじっくり経験していただき、助産師とよいチーム医療が

できるよう育っていただきます。

手術は、悪性腫瘍が5件/年程度あります。良性腫瘍はなるべく研修医の先生に執刀していただきます。

その他、思春期外来が担当できるように、思春期保健相談士の資格も取得していただきます。MEA治療なども経験していただきます。

聖隷沼津病院

専門医 山道玄(1994年 浜松医科大学医学部卒) 他2名

医師数は、常勤4名・非常3名体制で診療を行っています。このうち、4名が女性の医師となっています。

産科における当院の特徴は、正常分娩を主体とした周産期診療を行っています。また、内科合併症の妊婦の受入れも可能です。現在は、安全な周産期医療を提供できる環境を整えています。そして、NICUが併設されているのも当院産科の大きな特徴です。

次に婦人科についてですが、子宮内膜症、子宮筋腫をはじめとした一般婦人科疾患を対象とした診断と治療、骨盤臓器脱等の専門外来も行っています。専門的な診断とメッシュ手術を含めた最新の治療を提供できるよう努力しており、また不妊治療にも力を入れています。

研修において様々な経験を積み、専門医としての知識と技術を身に付けると共に、産婦人科のあらゆる分野に柔軟に対応できる医師の育成を目指しております。

富士市立中央病院

指導責任医 鈴木康之(1978年 岡山大学医学部卒)

矢田大輔(2007年 浜松医科大学卒)

当院は、富士市人口26万人の医療を担う総合病院として、ベッド数520床、うち産婦人科は45床、外来患者さんは1日平均100人以上で常勤医師5名、非常勤医師3名の全員がフルパワーで働いています。当院の特徴は扱う臨床症例の多数および多様性です。特に以下の3部門で基礎からの研修を体験してください。

周産期：地域周産期母子医療センターとしてハイリスク妊娠、分娩の患者さんを中心に年間800例の分娩があり、浜松医大から臨床研究面でもバックアップを得ています。

婦人科腫瘍：婦人科悪性腫瘍手術に関しては慈恵医大の助力を得られることになりレベルアップができます。良性疾患の腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術は積極的に取り入れており、研修医も術者として活躍しています。

生殖：平成23年11月に新しくなった設備で、顕微授精を含めた生殖補助医療を行っており、研修医も採卵を行い妊娠例を実体験しています。

富士宮市立病院

専門医 土井貴之(1996年 浜松医科大学卒) 柏木 唯衣(2009年 浜松医科大学卒)

当院は、富士宮市及び山梨峡南地区の周産期医療を担っており、常勤医3名、非常勤医師1名の体制です。

産婦人科医は女性の一生に渡って総合的に健康をサポートしていくとともに、新しい命を育ていく重要な役割を担っています。産婦人科の専門医として基礎知識と技術を習得した

後は、「周産期」「婦人科腫瘍」「不妊不育症」「婦人科一般臨床」の分野の研修を行い、専門性の高い医師の育成を目指しております。

順天堂大学医学部附属静岡病院

沼津市立病院

静岡市立清水病院

立岡和弘（1988年北里大卒）

当院の産婦人科は県中部地区で、産婦人科医師常勤医5名、非常勤医師5名の計10名の大変充実した診療体制となっています。産婦人科の4大部門にそれぞれ専門医をおいています。主に産科部門を橋本正弘科長、生殖医療部門を岩崎真也科長、ヘルスケア部門は坂部江里子医師、婦人科腫瘍部門は立岡和弘科長を中心として、それぞれ専門領域を生かし、日々新しい診療技術の導入や医療改革、地域との連携強化に努めております。産科部門では、産科危機的状況下での日頃からのシュミレーション、輸血準備時間の短縮化、地域の関連病院との連携強化（特に県立こども病院との早産、産科合併症対応）など、安全な分娩を心掛けています。また、今後助産師外来の設置に向けた準備も始めています。

生殖部門は現在、体外受精は見直しの為、休止をしていますが、県下では唯一、卵管鏡下卵管形成術を継続しております。ヘルスケア部門では思春期および更年期の診察に十分な時間を割いて、緻密な診療をおこなっています。院外活動として地域の市民公開講座や性教育活動も行っています。腫瘍部門では悪性疾患はガイドラインを準拠しつつ、個別の病態にあった治療を行っています。良性疾患では近年、腹腔鏡下手術の頻度が増しており、その技術向上に努めております。慶應大学病院とも密接に連携をとり、非常勤医師として丸山哲夫先生、阪埜浩司先生、古谷正敬先生に外来や手術の指導も行ってもらっています。

2) その他

静岡県立静岡がんセンター

部長：平嶋泰之（1986年三重大学医学部卒）

医長：武隈宗孝（1997年浜松医科大学卒）

副医長：高橋伸卓（1998年浜松医科大学卒）、安部正和（1998年浜松医科大学卒）

久慈志保（2001年東京女子医科大学卒）

当院は2002年9月に富士山と駿河湾を望む丘陵地に開院したがん診療連携拠点病院です。全床開棟時615床を有して、「患者さんの視点の重視」を基本理念とし、①がんを上手に治す、②患者さんと家族を徹底支援する、③成長と進化を継続する、の3つを患者さんへの約束として最善な医療の提供に取り組んでいます。

婦人科では、年間約200例の新規癌症例を扱っており国内有数の症例数です。リンパ節郭清術を含む婦人科がん手術は年間約120例行われ、このうち広汎性子宮全摘術が約40例含まれます。基本的な治療方針は婦人科腫瘍学会治療ガイドラインに沿った標準治療ですが、最適な治療方針を検討するために婦人科内だけでなく、放射線治療科、病理診断科と定期的にカンファレンスを開いています。ぜひ当院で婦人科腫瘍学を基礎から共に学びましょう。

8. 病院群の実績（平成 26 年 1 月～12 月）

研修施設、関連施設等

	伊東市民病院※	沼津市立病院※	富士市立中央病院	富士宮市立病院	静岡がんセンター△	聖隷沼津病院	順天堂大学医学部 附属静岡病院	静岡市立清水病院
総分娩	362	539	700	355	－	249	－	404
正常分娩	163	253	506	220	－	167	－	255
帝王切開	61	251	194	122	－	64	－	125
吸引鉗子	25	5	60	13	－	18	－	21
母体搬送	4	74	95	35	－	2	－	28
良性開腹	60	179	104	79	19	46	－	61
悪性腫瘍	18	1	30	14	219	0	－	19
腹腔鏡	2	69	174	19	28	44	－	55
他腔式	1	113	185	76	119	41	－	52
人工授精	0	18	108	10	－	9	－	18
体外受精 (採卵数)	0	18	76	0	－	9		0
融解胚移 植	0	－	68	0	－	8		0

※は平成 25 年実績

△は指定申請中

9. 研修期間

3～4年間

10. プログラム参加者の要件

産婦人科専門医を取得する意思があり、本プログラムに賛同してくださること。

11. 処遇

- 1) 身分
- 2) 給与
- 3) 健康保険等の福利厚生制度
- 4) 医師賠償責任保険
- 5) 休日等
- 6) 宿舎
- 7) 学会費用

原則として、研修する病院の規定に従う。

12. プログラム修了後の進路

- 1) 病院群への就職
優先的に常勤医師として就職可
- 2) 研修病院群以外の機関への就職
本人の希望に応じて病院・医師のネットワークにて斡旋可

13. プログラム運営委員（◎：プログラムリーダー）

◎ 沼津市立病院 第一産婦人科部長 辻井 篤（1986年 北里大医学部卒）

神奈川で育ち、学芸大学附属高校から北里大学。勤務地も神奈川・東京でしたが、14年前に沼津に赴任。全く知らない土地で当初は1～2年の予定が、あまりの過ごしやすさに居ついてしまいました。大都市の大病院を目指す若い先生が多いようですが、都会は住みにくいですよ。地方でも十分に高度な医療を学べます。

モットーは『患者の為に診療するな、自分の為に診療しろ』。

趣味はサッカーとピアノ。サッカーは控え組、ピアノも一向にうまくなりませんが、めげずに前向きに取り組んでいます。ぜひ私たちと一緒に、静岡県東部の産婦人科を盛り上げていきましょう。



伊東市民病院 管理者兼病院長 荒堀憲二（1979年 自治医科大学大学医学部卒）

日本産婦人科学会専門医、母体保護法指定医

岐阜大学医学部非常勤講師、日本思春期学会常務理事。

昭和54年自治医科大学卒 産婦人科研修は京都府立医大で行い、その後京都府北部の国立病院や自治体病院に勤務しつつ、地域の母子保健向上や思春期外来設立に尽力。

平成元年から国立公衆衛生院で母性保健室長を務めたのち、岐阜県の羽島



市民病院産婦人科部長。その後2年間を JICA 専門家としてケニア国の保健技術協力、母子保健プロジェクト立ち上げ等に従事。

JICA との関係もあり当院には中国の先生が務めているなど一風変わった環境ですが、日々の臨床では、若手の女性医師2人が優しく皆さんの面倒をみます。私は温泉と海の幸で人生を指南します。いろんなことに興味を持っている人、将来に迷いのある人、どちらも大歓迎。温泉大浴場付き 宿舎完備です。

富士市立中央病院 副院長 産婦人科 鈴木康之(1978年 岡山大学医学部卒)

清水生まれ、清水東高校から岡山大学に入学。学位取得後、平成2年浜松医科大学産婦人科関連病院へ。清水厚生病院副院長を経て平成21年より現職。日本産婦人科学会専門医、中部生殖医学会評議員、浜松医科大学臨床教授。

趣味はテニス、スキー、将棋。平成25年に槍ヶ岳に登頂し、登山も趣味にしたいと思っています。



静岡県立静岡がんセンター 婦人科部長 平嶋 泰之(1986年 三重大学医学部卒)

沼津市出身。沼津東高校から三重大学へ入学。S61年卒業後、浜松医科大学産科婦人科学教室へ入局。静岡医療センター、浜松医大産婦人科勤務後に2002年静岡がんセンター婦人科に赴任。医学博士。日本産婦人科学会専門医。日本婦人科腫瘍学会専門医、評議員。日本癌治療学会代議員。がん治療認定医。

趣味はスキューバダイビング、水中写真、自転車(マウンテン、ロード)、ダーツ、読書、音楽鑑賞(JAZZ・ROCK)、映画鑑賞。多趣味ですが、一流ではありません。

出身大学、所属医局などを超えて、当院でのチームワークを組んで、明るく前向きに仕事をしていきたいと思っています。



聖隷沼津病院 産婦人科部長 山道 玄(1994年 浜松医科大学医学部卒)

日本産科婦人科学会 産婦人科専門医

平成6年に浜松医科大学を卒業後、国立病院や地方自治体病院等へ勤務後、平成20年より聖隷沼津病院産婦人科へ赴任。

海(駿河湾)・山(箱根・伊豆)・そして、都会(東京など)、いずれにも非常にアクセスの良い沼津で私達と一緒に充実した研修生活を送りましょう!先生の「やる気」にスタッフ一同、精一杯協力させていただきます。

静岡市立清水病院 産婦人科長 立岡 和弘(1988年北里大卒)

私は昭和63年に北里大学の卒業です。その後、北里の関連病院の研修医や附属病院の病棟医、大学の研究員を経て、平成10年4月から現静岡市立清水病院に勤務させて頂いております。現在の静岡市立清水病院は平成5年に500床の総合病院として、開院し、総合病院として旧清水市と現在の静岡市清水区の患者様を中心として、東は由比蒲原、



西は静岡市街地や焼津までの地域の患者様を広く受け入れております。それ故、毎年当産婦人科は静岡県下で一番の外来受診患者数を誇ります。これから来られる研修医の方々が充実した研修を行えるように日常業務の見直しや改善を着々に行っております。是非、研修医や常勤医として清水病院においで下さい。